文化論集第19号
2001年11月

アメリカ「軍隊版」ペーパーバックと1940年代のアメリカ国民の読書嗜好[1]

渡 辺 洋 一

——死体の尻ポケットから、彼が休息のおりに読んでいたに違いない黄色いポケット版の本が突き出ており、題名だけが読み取れました—『私たちの心は若く陽気だった』——

1．序論

1.1 目的

本論考の目的は2つある。第1は第二次世界大戦の間に、アメリカは民間と軍が協力して、海外で戦う自国の兵士たちのために、1,322点、総発行部数1億2,300冊にのぼるペーパーバックを出版し配給した「軍隊版」(Armed Services Editions)[2]（プロジェクトの軌跡をたどることである。第2の目的は軍隊版で出版された本を吟味することにより、1930-40年代のアメリカ一般国民の読書の傾向を探ることである。

軍隊版は兵士たちに軍事教育・思想教育を行うための出版企画ではなかった。たしかに軍事に関わる本や、愛国心や戦闘意欲を高揚する本も含まれてはいたが、それらは全体の2パーセントにも満たず、ほとんどは一般の国民が娯楽・教養として読む類の書であった。これは世界でも希有なプロジェクトであ

ると思われる。日本の軍隊にはこのような試みはもちろんなかったし、イギリスやフランスやドイツの軍隊においてもこのような例があったということは聞かない。その意味においても軍隊版の誕生・実施について知ることは興味深いテーマとなるし、さらに、このような企画の背後にあるアメリカ人の考え方を知る大きな手がかりなるだろう。

軍隊版はすべてすでに民間で出版されていたものの再版である。本の選択は数名からなる選択会議に委ねられていたが、選者たちはおおむね独断偏向することなく、兵士たちの要望を配慮しながら出すべき本を選択した。その結果、大筋では、当時のアメリカで広く読まれていた本が軍隊版に選ばれた。もちろん、対象となる兵士の大半は若い男性であり、児童・老人・女性はいなかったわけであるから、選択はその分だけ限定されている。しかし軍隊版の出版傾向は民間市場の出版傾向とさほど違いは示さなかった。したがって、軍隊版で出版された本から当時のアメリカの読書傾向を見ることは妥当なことと考える。

1.2 先行研究

軍隊版（Armed Services Editions, 以下 ASE）について記述・解説した書はさほど多くはない。アメリカ出版史[3]やペーパーバック史[4]には数ページの解説はあるものの、それらのほとんどは、当時国防省の図書課にいたジョン・ジェイミーソン（John Jamieson）が記録した *Books for the Army* （Columbia University Press 1950、以下 *BFA*）および戦時書籍協議会（Council on Books in Wartime、以下 CBW）が出した *A History of the Council on Books in Wartime 1942-1946* （New York 1946 以下 *HCBW*）、そして実際に ASE の企画実行の中心メンバーの一人で、陸軍図書関係の統括者だったレイ・L・トロートマン（Ray L. Trautman）が書いた雑誌記事 "What Our Soldiers Are Reading;. Armed Services Editions and Magazines Currently Distributed." *Library Journal* 70 （1945）: 148-50.）とジェイミーソンのいくつかの雑誌記事に基づいてい

る[5]。1984年にはASE誕生40周年を記念して *Books in Action* – The Armed Services Editions (John Y. Cole (ed.), Library of Congress, 1984　以下 *BIA*) が出されたが、小冊子的なもので、ASEの出版リストをつけた以外には新しい情報はほとんどない。1996年にはヴァージニア大学の学生だったDaniel Millerが同大学のASEコレクションに基づいて *Books Go To War* (以下 *BGW*) をインターネット上にのせた。これはASEの本のカラーグラフィックをふんだんにちりばめた貴重で美しい作品である[6]。しかしASEに関する記述はやはり上述の本にもとづいており、ASEから出版された作家たちの手紙数通以外には新しい情報はない。

日本の研究書では、金子聖之助著『世界のペーパーバック』(出版同人 1973) が数ページにわたって解説している。また訳書であるが、『ペーパーバック大全—USA 1939-1959』(ピート・スフリューデル著、渡辺洋一訳　晶文社　1992) にも数ページの解説があるが、どちらも上述の *BFW* と *HCBW* にもとづいており、新事実は加えられていない。

研究論文としてASEを扱ったものは、私の目に触れた限りではアメリカにも日本にも見当らない。本論文も新たに発見された資料に基づいたものではないので、史実に関しては主として上に挙げた文献に基づいている。ただ、私の目から取捨選択し、私なりの考察を加えたつもりである。

2　ASEの誕生

2.1　前史

2.1.1.　ペーパーバック革命

マルコム・カウリー (Malcolm Cowley) は、1930年当時のアメリカの書籍店に関するO・H・チェニー (Cheney) の報告書にしたがい、書籍店の数は全国で4,053で、その大半はギフトショップや文房具店の片隅の棚に数冊の小説などを置く程度だったと述べている[7]。そして全米の3分の2の地域には本を

売る店は全くなかった。「本屋」と呼べるような店は全国でわずか500で、それも大半が12の大都市に集中しており、客は富裕階層に属する人たちに限られていた。農民や労働者たちの大半は本屋など入ったこともなかった[8]。ILOが、1930年頃にフォード自動車工場に勤める100の労働者家庭を調査した結果によれば、彼等の年間平均収入は1,711ドルで、新聞の購入費が年間で12.06ドル、映画などに5.55ドル、本に費やすのは平均でわずか0.20ドルだった。93の家庭では全く本を買わなかった[9]。30年代の後半までこの状況にさして変わりはなく、書籍は高価なハードカバーであり、読者は富裕な人々だった。

こうした出版・読書の状況に革命的な変化をもたらしたのは、ポケット・ブックス（Pocket Books）の創刊だった。1939年6月、ロバート・デグラフ（Robert de Graff）は、自分が設立したポケット・ブックス社（Pocket Books Inc.）から10点のペーパーバックを発売した。値段は25セントで、いずれもハードカバーで出版されていた作品のリプリントだった。ポケット・ブックスの発売は大成功であった。そのカギは次の4点にあった。

1．25セントという安さ

2．ベストセラー、良書、質のいい作品

3．書店以外でも、スーパーやデパート、駅のキオスク等々で気軽に買える

4．小型・軽量で持ち歩きに便利なサイズ。そして表紙のデザインが斬新

印税、取次店のマージンなどを極端に押さえ25セントという低価格にしたのが大きなポイントだったのは確かである。ポケット・ブックス以前にも25セント程度の廉価なペーパーバックがアメリカで発売され、それなりの成功を収めたことはあった[10]。だがそれらはポケット・ブックスのように広く普及することはなかった。その違いは何といってもポケット・ブックスが、人々が読みたいと思う人気の高い本や話題作、そして質の良い作品を選んだことにある。最初の10点は次の通りである。

1．ジェームズ・ヒルトン（James Hilton）　『失われた地平線』（*Lost Ho-*

rizon)　人気小説

2．ドロテア・ブランド（Dorothea Brande）『目覚め、そして生きなさい！』（*Wake Up and Live!*）　人気のあった自己啓発書

3．シェークスピア（Shakespeare）『５大悲劇』（*Five Great Tragedies*）　古典戯曲

4．ソーン・スミス（Thorne Smith）　『トッパー』（*Topper*）　人気小説

5．アガザ・クリスティー（Agatha Christie）　『アクロイド殺し』（*The Murder of Roger Ackroyd*）　人気ミステリー小説

6．ドロシー・パーカー（Dorothy Parker）『イナフ・ロープ』　人気作家の詩集

7．エミリー・ブロンテ（Emily Brontë）　『嵐が丘』（*Wuthering Heights*）　悲劇的な恋愛小説

8．サミュエル・バトラー（Samuel Butler）『万人の道』（*The Way of All Flesh*）古典的小説

9．ソーントン・ワイルダー（Thornton Wilder）　『サン・ルイス・レイの橋』　（*The Bridge of San Luis Rey*）　人気小説　ピュリッツァー賞受賞

10．フェリックス・ソールティン（Felix Saltin）　『バンビ』（*Bambi*）子鹿を主人公にした児童向け小説

１、２、４、５、９は20-30年代のベストセラーだったし、３は世界的に有名な古典、６、８はハイブラウ向け、７はこの年に封切られた同名の映画に合わせての出版だった。このように人気作品や話題作から、古典、児童向けと幅広い本の選定がポケット・ブックスの成功に大きく寄与していた。

こうしてポケット・ブックスは、「最良の本を最大多数の人々に最低の価格で」[11]という謳い文句の通りに、1941年で1,000万部、42年には2,000万部と売上げを増やしていった[12]。

他社もこの有望な市場に参入してきた。41年にはエイヴォン・ブックス (Avon Books)、42年にはペンギン・ブックス (Penguin Books)、43年にはデル・ブックス (Dell Books)、ポピュラー・ライブラリー (Popular Library) がペーパーバックの出版を開始し、ペーパーバック革命が急速に進行していったのだった。

2.1.2. 第2次大戦とビクトリー・ブック・キャンペーン

1939年9月、ナチス・ドイツのポーランド侵攻に反対して、英仏がドイツに宣戦布告し、第2次世界大戦が勃発した。アメリカから見た終戦までの主な出来事は以下の通りである。

1939： 9月3日 英仏、ドイツに宣戦布告
　　アメリカは中立的立場を取る。
1941： 3月11日 武器貸与法が成立。アメリカの英仏への支持明確となる
1941： 12月7日 日本軍真珠湾攻撃、太平洋戦争へ突入
1942： 6月5－6日 ミッドウェー海戦
1942： 9月28日 米増援軍、アフリカ西部海岸へ
　　11月8日 米英連合軍北アフリカへ上陸
1943： 7月10日 英米連合軍シチリア上陸
1943： 9月3日 イタリア無条件降伏
1944： 6月6日 Dデー。 連合軍のノルマンディー上陸開始
1945： 5月7日 ドイツ無条件降伏
1945： 8月15日 日本軍無条件降伏

アメリカが参戦に踏み切ったのは、41年12月の真珠湾攻撃を受けてからだった。この奇襲により、国論は一挙に参戦に傾き、アメリカ軍兵士が続々と戦地へと送られるようになった。

1942年になると、全米図書館協会 (the American Library Association)、赤

十字、および全国慰問協会（United Service Organizations＝U.S.O.）が中心となって、戦地の兵士慰問のために本を送る「ヴィクトリー・ブック・キャンペーン」（Victory Book Campaign、以下 VBC）が開始された。出版界もこの運動に協力した。出版される本の中には運動に協力を呼びかけるロゴや文句が刷り込まれた。たとえば、1943年に発行されたポケット・ブックには「わが軍の兵士たちは本を求めています…彼らは勉強のための本や楽しみ・気晴らしのための本を必要としています。この本でも、どの本でも、お読みになったら、最寄りの公立図書館へお持ちになるか、下記の住所へお送り下さい。全ての本はそこから戦地へと送られます」と印刷されている[13]。このキャンペーンは翌43年まで続けられた。

VBC およびその他の集本運動で集められた本は総計でほぼ1,850万冊に達し、そのうちの1,000万冊が戦地へ送られた[14]。

VBC は故国の人々の善意や奉仕に支えられていたが、問題もいくつかあった。１つは本のサイズで、送られてくる本はハードカバーも多く、嵩張り、持ち歩きに不便で戦地には不向きだった。２つには重複が多く、効率が悪かった、３つには必要な本と不要な本の区分けに大変な手間が掛かった。その上不要な本は戦地の図書館でも邪魔な存在となった[15]。

この他に、赤十字が戦時中を通じて本を購入して戦地へと送ったり、全国的な読書クラブ組織ブック・オブ・ザ・マンス（the Book-of-the-Month Club）が軍を無料会員とし、毎月1946年まで、クラブが選んだそれぞれの本を数百から千数百冊ずつ戦地の図書施設へと送った[16]。

2.2　ASE はどのように誕生したか。

上述のような送本運動が行われ、また陸軍や海軍も独自に本を買い付けて戦地の図書施設に送ってはいたが、数百万にのぼる海外の兵士の読書欲を満たすことはとても出来なかった。

戦地の兵士に配る本を出版社から買取るのではなく、自分たちで印刷・製本してしまおうというアイデアを思いつき、実現させていった功労者は図書担当陸軍将校だったレイ・L・トロートマンとその同僚のスターリー・トンプソン（Stahly Thompson）であった。ジェイミーソンは *BFA* の中で彼らの努力を生き生きと描いている[17]。軍の図書を出版社から購入する任を担っていたトロートマンは安価に手に入るペーパーバック版の本を求めていたが、いくつかの技術上の問題があって出版社はなかなかそのような注文に応じられなかった。そこで彼はトンプソンに相談した。トンプソンは雑誌サイズに適合するように活字を組替えて、輪転機で印刷したリプリント版を作れば、コストは低く抑えることが出来ると助言した。戦時下の用紙不足で雑誌用の輪転機はフル稼働しておらず、リプリントを印刷する余裕は十分にあった。ふたりはこのアイデアの検討を重ねた。しかし大規模なリプリント版を作るには著作権を握っている出版界の協力なしには不可能なことであった。そこでふたりは彼らの案を携えて、戦時書籍協議会（CBW）の執行委員であったマルコム・ジョンソン（Malcolm Johnson）に会いに行った。1943年1月のことであった。CBW は出版社、作家、図書館などが戦争遂行に協力するために1942年に結成された組織だった。CBW の目的のひとつは書籍を通じて、民間人と軍人の士気を高めることだった。「本は思想戦における武器である」というのが CBW のスローガンであった[18]。ジョンソンは二人の提案に大乗り気であった。彼は CBW の執行委員会に、CBW が中心になってこの案を実行することを提案した。すなわち、CBW がすべての責任を持ってこうした本を作成し、それを原価で軍に売ることだった。陸軍だけでなく海軍もこの案に乗り気だった。ジョンソンたちは綿密な計画を練りあげて出版界に提案し、時には反対する者を説得し、時には妥協をしながら、最終的な同意を取り付けた[19]。

1943年5月に ASE 計画はまとまった。その骨子を *HCBW* に沿ってみてゆこう[20]。

ASE 計画の基本的な考え方は「現在市場に出回っている書籍を、民間の経済を損なうことなく、しかももっとも広範な配給ができるような形態と価格で再版することによって、戦闘中の部隊や病院にいる兵士たちが入手できるようにすること」[21]であった。いうまでもなく、兵士たちが実際に購入するのではなく、政府＝軍が買い上げ、兵士たちに無料で配給するわけである。

この考え方をもとにした計画の主な点は次のようなものだった。

1　本の形態は携帯に適したものでなければならない。ハードカバーは不適切である。

2　本は軍隊のみに提供されるべきで、市場に出回り、民間の出版業者を脅かすことがあってはならない。

3　CBW は月に50点前後の本を作成する。

4　本の選択は、各出版社がリストを提出し、審議会がその中から、兵士たちに娯楽と気晴らしと情報を提供するのに適当と思われるものを選定する。そしてさまざまな人たちの間で交換され、読まれることを考慮すると内容が多様である必要がある。

5　政府が用紙を提供し CBW が本を編集し、印刷し、政府がこれを買い上げる。価格は出版コストに10パーセントのオーバーヘッドを加えたものである。

6　著作権料は 1 部につき 1 セントで、半分は著者へ、半分は出版社へ支払われる。

1943年 5 月、CBW はポケット・ブックスの編集を手がけていたフィリップ・ヴァン・ドーレン・スターン（Philip Van Doren Stern）を ASE の編集・発行の責任者に据えた。スターンがトロートマンとトンプソンの考えを入れて採用した ASE の実際の形態と印刷方法は次のようなものだった。

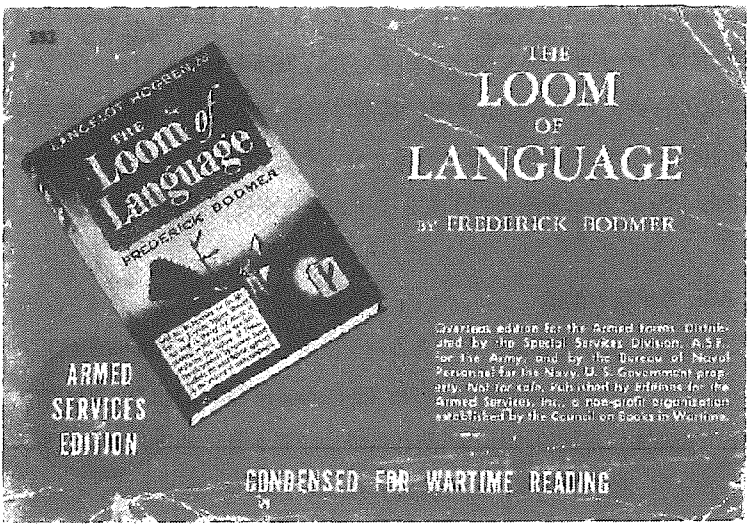
a．兵士の軍服のポケットに収まる、大小 2 種類の横長のサイズ（6.5×4.5インチ、および5.5×3.88インチ）のペーパーバック〈図一

1参照〉。2種類になったのは、雑誌を印刷する輪転機を使って印刷するので、原雑誌のサイズに合わせるためだった。すなわち、リーダーズ・ダイジェスト・サイズとそれよりやや大きいパルプ・マガジン・サイズだった。ミソは上下別々な本を組んで印刷し、製本の段階で中央を水平に裁断し2冊の本を同時に作ることにあった。こうすることにより1部当たりのコストは5万部刷った場合には10セント以下、10万部以上ならわずか5セントに抑えられる見通しだった[22]。

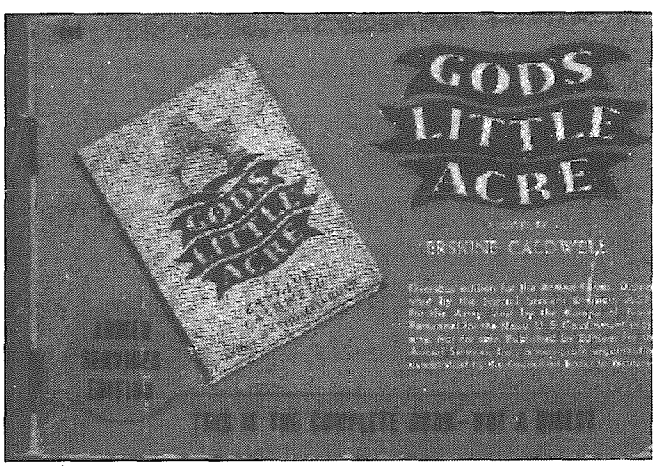
b．綴じ方は簡単で、250ページ以下の薄い本なら、短い縦の部分をホッチキスで止めただけ、厚い本ならホッチキスで止めた上に背を糊付けした。どちらも、すぐにバラバラになってしまうような綴じ方だった。しかしこれにはわけがあった。ASEは「使い捨て消耗品(expendable)」とされており、戦争が終わった後にも残って民間の市場に出まわることは許されない品なのであった。

c．本文は2段組、活字は小さいが読みやすいもの。2段組にした理由について、ジェイミーソンは、1．活字が小さくても読みやすい、2．スペースをとらない（1段組より12%多く活字が組める)、3．暗いところでも2段組の方が読みやすい、などをあげている[23]。

表紙のデザインは、主にポケット・ブックスの表紙を手がけていたソル・インマーマン（Sol I. Immerman）が担当した。図1にあるようにシンプルなもので、赤、緑，黄、青、黒などの地に、右側にタイトルと著者名、左側に原本の表紙写真を白黒にしてあしらったものだった[24]。 左下には 'Armed Services Editions' というロゴ、そしてタイトルの下には細かい字で非売品（Not for Sale）であること、政府の所有物（Government Property）であること等々の語句が印刷されていた。一番下には色違いの帯が配され、「本書は完全本であり、ダイジェストではありません」(THIS IS THE COMPLETE BOOK—NOT A DIGEST)、あるいは「戦時下の読書用に縮約しました」(CONDENSED



大サイズ：6.5×4.5インチ（16.42×11.43cm）
(Bowling Green State University の Popular Culture Library 所蔵)



小サイズ：5.5×3.88インチ（13.97×9.86cm）

図―1　軍隊版（Armed Services Editions）

FOR WARTIME READING)[25]と書き込まれていた。1175番（1946年９月）までのASEはこのデザインに統一されていた。1176番からは普通のポケット・サイズとなった。この時にはすでに戦争は終わっており、ASE文庫の発行部数も25,000部に減っていた。そうなるとむしろこのサイズの方が経済的だったわけである[26]。しかし表紙のデザインには大きな変更はなかった。

2.3 ASEの出版と配給

1943年９月、ASE文庫第１号であるレナード・Q・ロス（Leonard Q. Ross）の『ハイマン・カプランの教育』（*The Education of H*Y*M*A*N K*A*P*L*A*N* ユーモア短編集）が配給された。それ以降1947年９月に最後の１冊であるアーニー・パイル（Ernie Pyle）の『故国』（*Home Country* コラム集）にいたるまで、５年間で、点数は1,322点に及ぶ[27]。その間最初のうちは月に30点（A-I）で５万部、その後32点、そして44年９月からは月に40点となり、それぞれ125,000部刷られるようになった。さらにその後のピーク時には155,000部にまで増加した[28]。そして総計では実に１億2,300万冊弱のペーパーバックが出版された。

ASEのマークをつけた小さな本は、戦時中は海外で戦う兵士たちに、戦後は駐留する兵士たちに、そして負傷して入院した兵士たちに配給された。では、どのようにしてそれらは兵士たちの手に渡ったのだろうか。トロートマンによれば、基本的には海外の部隊には、およそ150人につき月に１セット（30-40部）、遠隔の部隊の場合には150名以下であっても１セット、病院では50床に1セットの割合で配給された。そして海外のアメリカ軍捕虜に配るために毎月4,000セットがYMCA捕虜援護部に送られた[29]。

ある従軍記者は、兵士たちがPX（軍の配給所）に群がっているところを通りかかった時のことをこう書いている：

「アイスクリームの支給所にも人けがなかった。近くライターの支給がある

という噂があった。……だが、それは本だった。痛まないよう茶色の包装紙でしっかりと包まれきっちりと縛られていた。PX の手伝いの者が包みを開け、本を大きな箱に移していた。行列はどんどん進んでいった。選んでいる暇はない。『さあ、一冊ずつ持って行くんだ。立ち止まるなよ。あとで交換すればいいんだから』と言う声が聞こえた[30]。」

このようなにして ASE の多くは兵士の手に渡り、互いに交換されながら回し読みされたのだった。

3．兵士たちはどのような本を読んだか。

3.1　ASE の出版物の選定者と全体的傾向

ASE の1,322点を見て最も印象的なのは、それらが決して兵士の士気高揚や思想教育を目指したり、敵国・敵軍に対する憎しみを煽るものではなく、一般の市民が読むものとほとんど変わらない、教養から娯楽にいたる多様な作品の集まりだということである。軍国主義・思想統制に走り、軍隊のみならず民間の出版物までもきびしく制限した日本とは極めて大きな違いである。ASE の背後には、戦地にいる兵士に少しでも故国の市民と同じ思いを味あわせてやりたいという労りが感じられる。アメリカ人の懐の大きさを感じる。

ASE 誕生の原動力となったトロートマンは、兵士たちとの接触や調査により、兵士たちがどんな本を求めているかをよく知っていた。彼はトンプソンと共に ASE 誕生のために知恵を絞った。そして CBW に働きかけた。それを受けて CBW がどのように彼らの計画を実現していったかは先に述べた通りである。CBW が当初どのような読み物を兵士に提供しようと考えていたかは CBW の中に設置されたマルコム・ジョンソン、ウィリアム・スローン（William Sloane)、ジョン・ファラー（John Farrar）の３人からなる企画委員会が1943年３月に提出したガイドラインから知ることができる[31]。それによれば含められるべき本は、この戦争を扱ったもの、当時人気のあった小説、ユーモア

もの、アメリカ文学の古典、ノンフィクション、短編小説などの選集等々であった。ASE にはオリジナルはなく、すべて再版であった。どのような本を選んで再版するかは、CBW 内の諮問委員会によって決められた。メンバーはジョン・ファラー（ファラー＆ラインハート出版社、ウイリアム・スローン（ヘンリー・ホールト出版社）ニコラス・リーデン（Nicholas Wreden スクリブナー書店)、ハリー・ハンセン（Harry Hansen ニューヨーク・ワールド-テレグラム紙)、ジェニー・M・フレクスナー（Jennie Flexner ニューヨーク市立図書館)、マーク・ヴァン・ドーレン（Mark Van Doren 詩人・批評家)、エイミー・ラブマン（Amy Loveman ブック・オブ・ザ・マンス・クラブおよびサタデー・レビュー・オブ・リテラチャー誌）の７名だった。のちにエドワード・C・アズウェル（Edward Aswell ハーパー＆ブラザー出版社）ベアトリス・リベーア（Beatrice Libaire ニューヨーク市立図書館)、ルイス・ガネット（Lewis Gannett ニューヨーク・ヘラルド・トリビューン紙)、ジョセフ・A・マーゴリーズ（Joseph A. Margolies ブレンターノ書店）が加わった[32]。彼らは無報酬で毎月２回集まり、書評を読み、検討し選定リストを作成した。そのリストは陸軍および海軍の図書担当者にまわされ、さらに検討された。陸軍の担当者はレイ・トロートマンであった。海軍の担当者はイザベル・デュボワ(Isabel DuBois) であった。そして諮問委員会、陸軍、海軍の３者が同意したものが出版された[33]。選択された本は、ジェイミーソンが「みんなに何かを」（Something or Everybody)[34]と表現しているように、広範で多様な欲求を充たそうとするものであった。ジェイミーソンは「妥当な範囲内ですべてのレベルの好みを満たすものが選ばれることとなった：真面目な読者のためには、小説であれノンフィクションであれ「よい」本がなければならないし、逆に真面目な読者から見たら「くず」のような本もなければならなかった」と述べている[35]。出征兵士たちは決して、知的レベルや教養が同じ集団であったわけでなく、むしろきわめて多種多様な人々の集まりだった。したがって読みたい本の

種類も多様なのは当然のことだった。ASE には、『オデュッセイ』(*Odyssey* 926) などの古典文学、『プラトンの共和国』(*Republic of Plato* H-217) といった哲学書や『サモアの思春期』(*Coming of Age in Samoa* 826) のような文化人類学書から『情熱的な魔女』(*The Passionate Witch* Q-13) といったセクシーなタイトルを持ったものや、漫画の『サッド・サック』(*Sad Sack* 719) や『スーパーマンの冒険』(*The Adventure of Superman* コミックを小説化したもの 656) などにいたるまで多様な本が含まれていた。しかし選定に当たった諮問委員会のメンバーは良識ある出版人、批評家、図書館員、ジャーナリストたちであり、全体的に見れば、選ばれた本は健全な作品であった。

3.2 ASE の出版物の分析

表－1はジェイミーソンが挙げた分類表を筆者が点数の多いものから順に並べ直し、それぞれのパーセンテージを出したものである[36]。

この表を見て気づく特徴は以下の通りである。数は少ないが戯曲、漫画も含まれているし、詩集などは28点もある。

1．ジャンルが多岐に渡っている。一番多い現代小説 (contemporary fiction) でも20パーセント以下である。
2．フィクションとノンフィクションの比率はおおよそ65％対45％である。しかし、たとえばユーモア (humor) などはフィクションもノンフィクションも含まれるであろうから、比率はあくまでも概算である。
3．娯楽を提供しようという ASE の意図が明確に見て取れる。1位の現代小説はおくとしても、2－4位までがウェスタン、ミステリー、ユーモアなどの肩の凝らない読み物となっている。
4．詩集、古典、科学、歴史など、ハイブラウ向きの本も含まれている。
5．ウェスタンや冒険ものなど分野が男性的な主流で、恋愛・ロマンスといった女性に好まれるものが少ない。対象が兵士であるから、これは

表一1　CBW の分類に基づくジャンル別出版点数とそのパーセンテージ

Classification	*Number of Titles*	%	*Examples*
Contemporary fiction	246	18.6	Steinbeck, Marquand, Rawlings, and others
Westerns	160	12.1	Mulford, Haycox, Grey, and others
Humor	130	9.8	Thurber, *My Life and Hard Times;* Smith, *The Glorious Pool*
Mysteries	122	9.2	Chandler, Ellery Queen, and others
Historical novels	113	8.5	Allen, *Bedford Fillage*; Roberts, *Northwest Passage*
Short story collections	92	7.0	Anderson, Mansfield, and others
Biographies	86	6.5	James, Andrew Jackson; Van Doren, Benjamin Franklin
Countries and travel	45	3.4	De Poncins, *Kabloona*; Keith, *Land below the Wind*
Adventure	33	2.5	London, *Call of the Wild*; Household, *Rogue Male*
Science	32	2.4	Sears, *Deserts on the March*; Gray, *Science at War*
Sports	30	2.3	Graham, *Lou Gehrig*; Farson, *Going Fishing*
Poetry	28	2.1	Housman, Longfellow, Shelley, and others
Sea stories and the navy	28	2.1	Ellsberg, *Hell on Ice*; Goodrich, *Delilah*
Fantasy	26	2.0	Hudson, *Green Mansions;* Bradford, *Ol' Man Adam an' His Chillun*
Miscellaneous	24	1.8	MacDougall, *Danger in the Cards; Schuster, A Treasury of the World's Great Letters*
Classics	23	1.7	*The Iliad; A Connecticut Yankee* (that is, both classical literature and popular classics)
Current affairs and the war	20	1.5	Lippmann, *U.S. Foreign Policy*; Ernie Pyle's books
History	20	1.5	Sandburg, *Storm over the Land*; Nevins and Brebner, *The Making of Modern Britain*
Nature	16	1.2	Dempewollf, Animal Reveille; Sanderson, A Caribbean Treasure
Self-help, inspiration, etc.	16	1.2	Fosclick, *On Being a Real Person*; Thouless, *How to Think Straight*
Music and the arts	11	0.8	Miller, *Esquire's Jazz Book*
Aviation	8	0.6	Saint-Exupery, *Night Flight*; Markham, *West with the Night*
Drama	7	0.5	O'Neill, Shaw, and others
Cartoons	6	0.5	Price, Arno, and others
計	1322	100	

当然のことである。

軍の図書関係者は、しばしば兵士たちの希望や好みを知るためのアンケート調査を行ってきた[37]。兵士から要望が多いものの順位は1位が最近の小説、2位がアクションもの（ウェスタン、ミステリー、アドベンチャー）、3位が短編小説集、以下は戦後の状況に関するもの、科学・技術関係、伝記、社会情勢、歴史小説、古典文学、軍事関係となっている[38]。ASEの選択にあたった人々にこうした要望がどれほど直接的な影響したかは定かでないが、上の表と対照すれば、ASEの選定がほぼ兵士の要望に合致していたことは明らかである。

1944年には、ある海外の戦地の兵士を対象に、その時までにASEから出ていた120点について、人気調査をしている。特に人気のあったのは、ベストセラー小説やユーモアもの、アクションもの、そしてお色気もの（たとえば、*Star-Spangled Virgin*[39]）だった。　こうした兵士の好みをよく知るトロートマンがASEの選択に加わっていることを考え合わせると、ASEの出版傾向が兵士の好みによく沿っているのは十分首肯できるところである。

ASEを読んでいた出征兵士たちの嗜好は一般市民のそれと大差はない。それはASEが多くのベストセラーのリプリントを含んでいることからも明らかである。40-45年までに130万部以上を売った米国のベストセラー22点のうち14点がASEから再版されている[40]。したがって、ASEの出版リストを仔細に検討することにより、30-40年代の米国民一般の読書嗜好を知ることが可能であろう。

表－1のジャンルに従い、さらに詳しく見てゆこう。

3.2.2　現代小説およびアメリカ古典文学

最も出版点数が多い現代小説の分野で最も注目されるのは、スタインベックの『怒りの葡萄』(John Steinbeck *The Grapes of Wrath*　C-90) である。30年代

の大恐慌下、オクラホマを追われカリフォルニアへと移住する貧しい農民を描いた小説は社会問題を鋭くついた作品であった。1939年のベストセラーであり、また40年にはジョン・フォードによって映画化された。こうした一般の人気もあってASEで再版されたのであろうが、このような社会批判の書は軍隊の読み物にはそぐわないような気がする。選者の良識と、そして一般の人気に支えられた結果であろう。ベストセラーとなったが、黒人と白人の恋愛を扱い、物議を醸したリリアン・スミス(Lillian Smith)の『奇妙な果実』(*Strange Fruit* Q-32) も出版された。アースキン・コールドウェル (Erskine Caldwell) やジョン・オハラ (John O'Hara) などの作品は数点ずつ出版されている。シンクレア・ルイス (Sinclair Lewis) も3点入っている。ヘミングウェイの作品は2点出版された(『短編小説選』*Selected Short Stories* K-9 および『持つともたぬと』*To Have and Have Not* 657) が、1940年のベストセラーの一つであった『誰がために鐘は鳴る』(*For Whom the Bell Tolls*) は含まれていない。スコット・フィッツジェラルド (Scott Fitzgerald の作品は『偉大なるギャッツビー』(*The Great Gatsby* 862 および『リッツほど大きいダイヤモンド他、短編集』*The Diamond as Big as the Ritz and Other Stories* 1043) が入っている。トマス・ウルフ (Thomas Wolfe) の長大な作品も縮約版で2点(『天使よ故郷を見よ』*Look Homeward Angel* O-31、『時間と河』*Of Time and River* 1013) 出版された。ウィリアム・フォークナーの作品は1点のみ(『エミリーへの薔薇、他短編集』*A Rose for Emily and Other Stories* 825) である。1930年代に重要作品を次々と発表していたフォークナーだが、人気という点ではスタインベックなどに遠く及ばなかったということだろう。シオドア・ドライザー (Theodore Dreiser)、ジョン・ドスパソス (John Dos Passos) の作品はASEには含まれていない。

アメリカ文学の古典といわれる作家では、マーク・トウェイン (Mark Twain) が6点、ジャック・ロンドン (Jack London) が6点(うち1点がリプ

リント）が目立つ。表－1の例から分かるように、ロンドンの作品の（一部？）は冒険物に分類されている。彼の作品は古典というよりはポピュラーな冒険小説の作家として受け入れられていたのだろう。ハーマン・メルヴィルは3点が入っているが、これも海洋冒険に分類されている。ナサニエル・ホーソン（Nathaniel Hawthorne）、ヘンリー・ジェームズ（Henry James）は短編集が1点ずつ出版されている。

ASEには英国作家の作品も多く含まれている。サマセット・モーム（Sommerset Maugham　5点）、クローニン（Archbald Joseph Cronin　5点）、コンラッド（Joseph Conrad　5点）、ウェルズ（H. G. Wells　5点）そしてヒルトン（James Hilton　3点）らの作品は、米国でも人気が高かった。

ASEから出版されなかったベストセラーの中には、歴史小説のカテゴリーにはいるのだろうが、大ベストセラーだったマーガレット・ミッチェル（Margaret Mitchell）の『風と共に去りぬ』（*Gone with the Wind* 1936）やハーベイ・アレン（Hervey Allen）の『アンソニー・アドヴァース』（*Anthony Adverse* 1933）、そしてパール・バック（Pearl Buck）の『大地』（*The Good Earth* 1931）がある。いずれも長大な作品であり、縮約が困難だったのかも知れない。しかし1942年の大ベストセラーだった、L·C·ダグラスの歴史小説『聖衣』（*The Robe*）は出版されている（D-118）。

やはりベストセラーだったジェームズ・ファレル（James Thomas Farrell）の3部作『スタッド・ロニガン』（*Stud Lonigan*　1932-35）もASEから出版されなかった。作家の左翼的な姿勢が選者から敬遠されたのかも知れない。また黒人作家リチャード・ライト（Richard Wright）の『ブラック・ボーイ』（*Black Boy*）も1945年のベストセラーの一つとなったが、ASEには含まれなかった。人種的なものが関わっていたのであろうか。

3.2.3 ウェスタン

ウェスタン小説は160点で、全体の12パーセントを占めているのも注目される。肩の凝らないアクションと勧善懲悪の読み物として戦地の兵士たちに歓迎されたのであろうし、また40年代においてはウェスタンは小説でも、映画でも現在では想像もできないほどの人気ジャンルであった。いちどきに100万部を越えるようなベストセラーにはならないものの多くの固定ファンを持っていた。また、人気作家がある程度限定されているのもこのジャンルの大きな特徴である。従って ASE でも一人の作家の出版点数という点ではウェスタンが一番多い。たとえば、アーネスト・ヘイコックス（Ernest Haycox）は18点（うち4点がリプリント)。マックス・ブランド（Max Brand）が18点（うち2点がリプリント)。ゼイン・グレイ（Zane Grey）が9点（うち1点がリプリント)、クラレンス・マルフォード（Clarence E. Mulford）が9点、ウィリアム・レイン（William M. Raine）が8点といった具合である。1902年に出版されたオーウェン・ウィスター（Owen Wister）の古典的作品『ヴァージニアン』（*Virginian*）は含まれているが、ウェスタン小説の原点ともいうべきジェームズ・フェニモア・クーパー（James Fenimore Cooper 1789-1831）の作品は ASE には1点もない。

3.2.4 ユーモア

ユーモアが130点と第3位となっている。これはアメリカ人のユーモア好きという気質が大きな要因であろうが、それと同時に、娯楽も少なくまた常に死と隣り合って過ごさねばならない戦地にあって、笑いをもたらしてくれるユーモア書はストレスを和らげ、精神の均衡を保つのに大いに役立ったに違いない。ASE の出版第1号となったのは、レーナード・Q・ロスのユーモア連作小説の『ハイマン・カプランの教育』だった。兵士たちがいかにこの本を歓迎したかについて、後年ロスは戦地からもらった次のような兵士からの手紙を紹介

して説明している：

「…先週、我々はあなたがお書きになったカプラン氏についての本を受け取りました。私はそれを読んでただただ笑ってしまいました。そこで或る晩、試しにキャンプファイアでその一節を兵士たちに読んで聞かせました。彼らは笑い転げました。そんな笑い声は何ヶ月も聞いたことがありませんでした。彼らは私に『カプラン』を一晩に1編づつ読んで聞かせることを求めました。楽しみの配給割り当てというわけです。…」[41]

軽妙なユーモアと諷刺で人気のあったジェームズ・サーバー（James Thurber）の作品は合作も含め実に13点（うちリプリント4点）に上っている。ユーモアに富んだ多彩な文筆家だったロバート・ベンチリー（Robert Charles Benchley）の著作は6点（うちリプリント1点）がASEから出版された。ユーモアとペーソスの作家としてで知られるウィリアム・サローヤン（William Saroyan）の作品も『人間喜劇』（*The Human Comedy* A-15）ほか3点が出版された。

米軍の慰問に力を入れていたコメディアンのボブ・ホープ（Bob Hope）がその経験をジョークを交えて綴った『私は故国を離れなかった』（*I Never Left Home*）は1944年に出版され、わずか2ヶ月で140万部近くを売るという大ベストセラーとなった。彼はその印税を国家戦争遂行基金（National War Fund）に寄付した。この本はもちろんASEでも出版された（O-14）。

1942年の大ベストセラーだったマリオン・ハーグローヴ（Marion Hargrove）の『おい、ハーグローヴ二等兵』（*See Here, Private Hargrove*）は著者が入隊した軍の日常生活をユーモアたっぷりに描いた作品である。大変な人気を呼んだにもかかわらず、不思議なことになぜかASEからは出版されなかった。

3.2.5 ミステリー

ジェームズ・ハート（James Hart 1950）によれば米国でミステリーが人気のあるジャンルとして確立したのは1930年代である[42]。ハワード・ヘイクラフト（Howard Haycraft）によれば、書評雑誌『ブックレビュー・ダイジェスト』（*Book Review Digest*）に取り上げられたミステリー書は1914年が12点、1925年が97点、そして1939年には数多くのリプリント版は除いて217点に達した[43]。30年代にはじめて出版された小説のうちほぼ4分の1がミステリーまたは探偵小説だった。120万部以上売れた30年代のベストセラーのリストを見ると19点のうち、E・S・ガードナー（Earle Stanley Gardner）の弁護士ペリー・メースン（Perry Mason）ものが7点、そしてエラリー・クイーン（Ellery Queen）の作品が3点も含まれている[44]。

大恐慌のあとの30年代には、従来の頭脳明晰でもっぱら推理によって事件を解決するアームチェア・ディテクティブ型のミステリーにあき足りず、リアルな状況の中で自ら行動することにより事件を解決してゆくハードボイルド型のミステリーが生まれ、読者に支持されるようになった。ハメット（Dasshiel Hammett）やチャンドラー（Raymond Chandler）の作品がそれである。ハメットの『マルタの鷹』（*The Maltese Falcon* 1930）、『ガラスの鍵』（*The Glass Key* 1931）やチャンドラーの『さらば、いとしき人』（*Farewell, My Lovely*）などが当時のベストセラーとなった。またJ・M・ケイン（James M. Cain）の『郵便配達人は2度ベルを鳴らす』（*The Postman Always Rings Twice* 1934）『倍額保険』（*Double Indemnity* 1936）も人気が高かった。

ミステリーの出版は40年代にも上昇をたどった。この傾向を反映してASEにおいてもミステリー関係の小説は全体の1割弱を占めている。暴力・殺人という刺激の強い題材と事件のナゾ解きというカタルシスが兵士たちの人気を勝ちえたのであろう。ASEの中で最も出版点数が多かったのはロックリッジ夫妻（Frances and Richard Lockridge）の作品で7点を数える（うちリプリント

1点)。彼らの作品はノース夫妻（Mr. and Mrs. North）を探偵とするものとハイムリッチ警部（Inspector Heimrich）が活躍する軽妙なタッチのものである。ロックリッジに次いで多いのはガードナーの弁護士ペリー・メースン（Perry Mason）ものの6点、ドロシー・ヒューズ（Dorothy Hughes）の作品が5点，ニュージーランドの作家ナイオ・マーシュ（Ngaio Marsh）が4点、レックス・スタウト（Rex Stout)、ウィリアム・アイリッシュ（William Irish)、クレイグ・ライス（Craig Rice)，J・M・ケインがそれぞれ3点ずつとなっている。

日本人探偵ミスター・モト（Mr. Moto）が活躍する作品でも知られるM・P・マーカンドの作品は7点あるが（うちリプリント1点)、いずれもミステリーではない。また当時人気の高かったアガザ・クリスティー（Agatha Christie)、やヴァンダイン（Van Dine)、ハメットの作品はASEからは出版されていない。

3.2.6　歴史小説

歴史小説も人気ジャンルであった。ASEから113点が出版された。先に挙げた『聖衣』の他に、キャスリーン・ウィンザー（Kathleen Winsor）の『永遠のアンバー』（*Forever Amber* 653)、エドナ・ファーバー（Edna Ferber）の『シマロン』（*Cimarron* E-140）ウォルター・エドモンズ（Walter D. Edmonds）の『モホークの太鼓』（*Drums along the Mohawk* E-149)、サミュエル・シェラバーガー（Samuel Shellaberger）の『征服への道』（*Captain from Castile* 854）等々がある。

3.2.6.　その他のフィクション

この他のフィクションとしては、英国人C・C・フォレスターの海洋小説シリーズ、『ホーンブロワー艦長』（*Commodore Hornblower* 804）他11点（うちリ

プリント2点)、英国人ラファエル・サバティーニ (Rafael Sabatini の『シーホーク』(*The Sea Hawk* I-266) などの海洋冒険もの、フランスの飛行士・作家のサンテグジュペリ (Antoine de Saint-Exupéry) の『夜間飛行』(*Night Flight* F-152) のような航空もの、ロングフェロー (Henry Wadworth Longfellow)、サンドバーグ (Carl Sandburg) などの自国の詩人や、シェリー (Percy Bysshe Shelley)、テニスン (Alfred Tennyson)、ワーズワース (William Wordsworth) などの英国詩人の作品集など28点の詩集がある。

3.2.7. ノンフィクション

ノンフィクションでは、伝記が断然多い。その他には歴史、スポーツ、科学、芸術等々多様である。第2次大戦で米軍に従軍し、沖縄で戦死したジャーナリスト、アーニー・パイルが戦地の兵士たちの姿を綴ったコラムは戦時下の米国民の間できわめて人気の高い読み物だった。1943年には彼のコラム集『これがあなたの戦争だ』(*Here Is Your War*) がベストセラーとなった[45]。ASE からも4点が出版された。『故国』(*Home Country* 1322) はパイルの最後の本であり、また ASE の最後の本となった。また、1943年には高名なジャーナリスト、ウォルター・リップマン (Walter Lippmann) の『アメリカ外交政策』(U. S. Foreign Policy) がベストセラーとなった。そして ASE にも加えられた (C-73)。

ノンフィクションの大ベストセラーで ASE から出版されなかったものとしては、デール・カーネギー (Dale Carnegie) の『人を動かす』(*How to Win Friends and Influence People* 1936) が挙げられる。この楽天主義に支えられた自己啓発書は現在にいたっても読まれており、また多くの言語に翻訳されている。初年度にハードカバーで75万部以上売れ、1940年にはペーパーバック版が出版され、48年までにハードカバーとペーパーバックと合わせて330万部という当時としては破天荒な売れ行きであった。しかし、どういう事情があって

か、ASE からは出版されなかった。

1943年、『秘密情報員』(*Under Cover*) が出版され、話題をさらった。この本の副題は「アメリカにおけるナチスの地下活動に従事した4年間の記録—枢軸側スパイと内なる敵がどのようにアメリカを破壊しようとたくらんでいるかを暴く驚異の記録」(*My Four Years in the Nazi Underworld of America—The Amazing Revelation of How Axis and Our Enemies within Are Now Plotting to Destroy the United States*) というセンセーショナルな暴露ものであった。著者は一時スパイ活動をしていたロイ・カールソンという人物だった。出版されるとすぐに名誉毀損訴訟などで物議を醸したが、それが話題になり、また当時ラジオで人気のあったウォルター・ウィンチェル (Walter Winchell) 記者の支持もあってハードカバーのみで100万部に迫る売れ行きだった[46]。しかし、反ナチの格好の宣伝書であるにもかかわらず、この本は ASE には加えられなかった。政府・軍が兵士の反応を憂慮した結果であるか、それとも選者たちの良識によるものかは不明だが、選者たちの意向の結果だとすれば、ASE の特徴をよく示すものといえよう。ASE は戦時下の兵士に提供する読み物であったが、軍事色、愛国ファナティシズム臭は驚くほど少ない。

4　ASE はどのように兵士に受け入れられたか：兵士の手記その他

以上のように出版され、配給された ASE を兵士たちはどのように読んでいただろうか。それを示すものは、彼らの手記であり、また彼らから著者たちに送られた手紙である。

遠隔の病院にいる兵士たちのための本を受け取るために何十マイルもヒッチハイクしてきた赤十字の将校は、「何冊かはすり切れてもう読めなくなってしまいました。でも、それをゴミ箱へ捨てるのは、祖母のお尻を叩くのに等しい不敬な行為ですよ。」と語った[47]。

HCBW は次のような手紙を紹介している：

「サイパン島でのことでした。夜に敵の激しい迫撃砲により多くの海兵隊員が死んだ翌朝のことでした。道を歩いていて、私は戦死者が何台かのトラックの荷台に積まれているのを見ました…ある者は仰向けに、ある者はうつぶせになっていました。うつぶせの死体の一つは前線で鍛えられたら立派な海兵隊員になれそうな、補充されて到着したばかりの若い金髪の二等兵でした。視線を落とすと私は生涯忘れることのないものを目にしてしまいました。死体の尻のポケットから、彼が休息のおりに読んでいたに違いない黄色いポケット版の本が突き出ており、題名だけが読み取れました—『私たちの心は若く陽気だった』」[48]

『私たちの心は若く陽気だった』(*Our Heart Was Young and Gay*) はエミリー・キンブラーとコーネリア・スキナー (Emily Kimbrough & Cornelia Otis Skinner) という二人の女性が1920年代にしたヨーロッパ旅行の思い出をユーモラスに綴った青春の記だった。1943年に ASE 加えられ (B-73)、のちにリプリントされた (R-17)。

英国の病院に入院していたある陸軍将校は次のように書いている：

「飛行機で前線に運ばれる歩兵たちの列から、銃後に勤務する主計部隊員に至まで、兵士たちがそれまでに経験したことがないほど熱心に本を読んでいるのを見ることでしょう。私の部隊の猛者たちの中には、恥じ入ることもなく小学校以来はじめて本を読んでいると認める者もいます。」[49]

デーヴィス (Davis 1984) は1944年のニューヨーク・ポスト紙にのった将校たちの体験記を引用している：

フランスで戦っていた或る将校は、一冊の『ブルックリン横町』(*A Tree Grows in Brooklyn* D-117, K28 (リプリント)) が兵士の手から手へと渡って読まれついに自分にまわってきた時の思い出を語る。「私はこの本が私にとってどれほど意味を持っているのか分かりませんが、ドイツ軍の銃撃のさなか、次の閃光がまたたくまでの間、銃弾に意識を集中するかわりに、『ブ

ルックリン…』に出てくる人たちのことを思っていました。」

また別な将校は語る。「あるときインドで、ひげの軍曹がリップマンの『外交政策』を読みふけっていました。彼にわが国の外交政策に関する見解はと問うと、彼は『上官殿、自分にはまだ分からないんであります。どうかこの本を読み終えるまで待ってください』と答えました」[50]。

兵士から作家たちに送られたファン・レターも彼等がどれだけ熱心に読んだかを知る格好の材料である。ジェイミーソンは、作品がASEから再版された作家たちを対象にしてに兵士からのファン・レターのアンケートをとった[51]。多くの作家たちが回答を寄せた。その結果を見ると彼等が驚くほど沢山の手紙を兵士たちから受け取っていることがわかる。もちろん作家によって差はあるが。小説家H・アレン・スミス（H. Allen Smith）はリプリント2点を含め5点をASEから出しているが、5千から1万の手紙を兵士たちからもらった。ベティ・スミス（Betty Smith）は『ブルックリン横町』のみであるが（ただしリプリントされた）、一般市民からの手紙の10倍以上を兵士たちから受け取った。小説家ルイ・ブロムフィールド（Louis Bromfield）はリプリント1点を含め7点をASEから出しているが、1,500から2,000の手紙を兵士たちからもらっている。『共和国』（*The Republic* p-29）の著者チャールズ・ベアード（Charles Beard）は数百通の手紙を受け取った[52]。キャサリン・アン・ポーター（Katherine Ann Porter）は寡作であり、またいわゆる「売れる」作家ではないが、ASEのために編集された短編集（*Selected Short Stories* R-21）が出て数ヶ月の間で約600通もの手紙を受け取った。「私の楽しい仕事の一つはこうした手紙の返事を書くことでした。というのはそれらの手紙は例外なく親しみがこめられ、良識的で、誠実味があり、中には文章のすばらしいものもあったからです。」と彼女は書いている[53]。

以上の例からも明らかなように兵士たちの反応は好意的であり、多くの兵士たちが平時に倍する読書家となり、ASEによって読書の楽しみに目覚めた

人々も少なくないことがうかがい知れる。戦争という異常な状況の中で、娯楽は極端に少なく、本を読む以外にはすることがなかった。極限状態の中、平時よりもはるかに精神は過敏となり、兵士たちは本が与える感動・笑い・そして思想に鋭敏に反応することもあったことは想像に難くない。

5 ASE は戦後の読書習慣に何をもたらしたか

ASE プロジェクトにより、約1億2,300万冊の本が配布され、数百万の若いアメリカ人男性がそれを受け取って読んだことになる。それ自体が大変な出来事であるが、それは戦争終結とともに終わってしまった現象だろうか。いや、むさぼるようにして ASE を読んだ膨大な数の若者たちが故国へ帰ったわけであるから、それが戦後のアメリカに何らかのインパクトをもたらさないはずはなかった。

1943年11月、ASE が出版され始めてまもなく、マルコム・カウリーは ASE が読書習慣を普及させることにより、アメリカの書籍市場を拡大させるだろうと予言した—「戦後の一般向け書籍の売上は何十万の規模ではなく何百万の規模となると推測すべきだろう」[54]。そして文化や思考のレベルは向上し、読書に親しむようになった一般の人々はより大きく知見を広げるだろうと彼は期待した[55]。

ASE プロジェクトを推進したマルコム・ジョンソンたちも、ASE が結局は読者層の増大につながり、長い目で見れば出版界全体の利益になるものと予測していた。彼等はこれを渋る業者たちを説得する切り札にした。1943年5月、ASE 実行委員会は CBW のメンバーにあてた文書で、ASE プロジェクトが「戦後の平和時の読書に与える影響は、出版業全体に利益をもたらすであろう。そしてその利益はきわめて大きいはずである。」と述べている[56]。

カウリーや ASE 実行委員会の予測通り、戦後はペーパーバックの出版は点数においても部数においても飛躍的に増大し、1939年ポケット・ブックス創刊

と共に始まった「ペーパーバック革命」は出版界の様相や人々の読書習慣を変えて行った。金平は、推定の数字ではあるが、具体的な数を挙げて発行点数と部数の飛躍ぶりを説明している。それを表にすると以下の通りである。

表ー2　ペーパーバックの躍進　（金平、p.30を図表化）

年	ペーパーバック出版社数	発行点数	発行部数
1939	1（ポケット・ブックス社）	34	1,508,000
1945	4	112	83,000,000
1953	16	10,061	290,000,000

このような飛躍の原因は、いくつも数えあげられるだろう。何よりも値段の安さが挙げられる。ポケット・ブックスが1939年に最初の10冊を出したときの値段はわずか25セントだった。そして50年代のはじめでも25セントから35セント程度だった。携帯に便利でどこでも気軽に読めることも大きな要因である。また、書店ばかりでなくドラッグストアや、駅の売店でなどで買えるという気軽さもある。さらに戦中の用紙統制が撤廃されたことも発行に拍車をかけただろう。しかしそれにもまして、ASEを通じて読書に親しんだ何百万という兵士たちの多くが、戦地から帰還した後も戦時の読書習慣を保ち続け、ペーパーバックの購読者となっていったものと考えられる。

スフリューデルは、以下のような言葉でASEの概観を締め括っている。

「終戦を迎えるころには、アメリカの人々はペーパーバックを買うことに慣れてしまっていた。「真の」文学書は、スーパーマーケットや駅の売店ではなく、本屋でしか買えないのだという考え方は昔のものとなった。アメリカでもその他の国でも、ペーパーバックを求める大衆読者が存在するのは明らかで、出版社にとってそれは、総計一億二三〇〇万という膨大な軍隊版が出まわったことを見さえすれば容易にわかることだった。種子は確実に根づいていたのだ。そして四〇年代後半から五〇年代にかけて、出版社はその果実の収穫に精を出すことになった[57]。」

6. 結びに

ASEは、一人の将校のアイデアに始まり、アメリカ出版界と陸軍・海軍の連携をもたらし、1億をゆうに超える一大出版事業となり、兵士たちに大いなる慰めを与えた。そして多くのアメリカの若者に読書の喜びを知らしめた。戦争という最も殺伐な行為が読書という最も平和的な行為を育んだわけである。「本は武器である」(BOOKS ARE WEAPONS) という勇ましいスローガンをもつ団体の事業が、実は多くの兵士たちに束の間の現実逃避と精神の安らぎを与え、恐怖や狂気を免れるのに役立ったわけである。私はこのアイロニーに大きな興味を覚える。しかも戦争中に培われた兵士たちの読書習慣・読書嗜好が戦後の出版・読書に大きな変化をもたらす要因のひとつとなった[58]。

戦後の出版界、読書界の様相は大きく変化していった。特にマス・マーケット向けの出版は急成長し、続々と参入する出版社間に熾烈な競争をもたらしながら、ペーパーバックを巨大な市場へと導いていった。戦後の読書嗜好も大きく変化した。それはベストセラーとなる作品の傾向や、ペーパーバックの表紙のイラストにはっきりと現れた。その様相をたどることが次のテーマである。

注

1) 本研究を行うにあたり早稲田商学基金から補助をいただいたことに感謝する。また貴重な資料を快く閲覧させてくれ、様々な便宜を図ってくれた Bowling Green State University の Popular Culture Library の館員の方々に心から感謝する。

2) (金平聖之助 (『世界のペーパーバック』1973) では「陣中文庫」と訳しているが、渡辺の『ペーパーバック大全』(1992)の訳語に従い、本論では「軍隊版」を使用する。

3) たとえば、John Tebbel の *A History of Book Publishing in the United States* 4 vols. R. R. Bowker New York の第4巻 *The Great Change 1940-80* には多少の言及がある。

4) Piet Schreuders *Paqperbacks, U.S.A-A Graphic History 1939-1959* pp.49-53 Blue Dolphin Enterprises, Inc. Kenneth W. Davis: *Two-Bit Culture -The Paperbacking of America* Houghton Mifflin Co. Boston 1984 pp.69-79, 和書では 金平聖之助『世界のペーパーバック』 pp.25-30 出版同人 1973)。

5) 巻末の参考文献を参照

6) http://www.lib.virginia.edu/exhibits/ase/ ヴァージニア大学のコレクションは、ASEの編

集長だった Philip Van Doren の所有していた1,310点で、どれもほぼ新品である。 したがって、このサイトに載せられたASEの本の写真はいずれも破損されていないもとのままの姿である。

7) "Books by the Millions" *New Republic* 109, No.27 (July 1, 1944) p.482

8) ibid.

9) ibid.

10) 金平 pp.3-22

11) "the best books for the largest number of people at the lowest possible prices" Schreuders p.20

12) Cowley p.482-3

13) (OUR BOYS WANT BOOKS…They need books for study and books for amusement and recreation. When you are through reading this POCKET BOOK, or any book, take it to your nearest Public Library or send it to the address below. All books will be forwarded whereever they are needed most. … Pocket Book 208 The Rubber Band 第1刷 1943年2月)

14) *BFA* p.61

15) ibid. p.62

16) ibid. p.63

17) ibid pp.143-5

18) "Books Are Weapons in the War of Ideas" *HCBW* p.5

19) *BFA* pp.145-6

20) *HCBW* p.69-73

21) "The basic thinking behind this plan has been to find some way of making current books available to our combat troops and to hospitals without damage to the civilian economy and in a form and at a price which would make the most widespread distribution possible." *HCBW* p.70。

22) *BFA* p.145

23) Jamieson (1945)

24) *BGW* には多数の ASE の表紙の写真が含まれているので、それを参照.。

25) 512ページが上限でそれ以上になると縮約された。*BGW* ch. V

26) Schreuders p.51

27) 1,324点とする書もあるが、*BFA* によれば、これは *Webster's Handy Dictionary* 2点を重複してカウントしているためである。p.293 注1

28) *BFW* p.156

29) Trautman (1945) p.149

30) "Even the ice cream handout counter was deserted. There had been a rumor that some cigarette lighters were due, and I figured nothing less could have caused the furor, and I needed one myself. But it was your books. They had come in those taut-corded brown-paper bundles that seem to protect them very well, and the PX help was cutting the bundles open and dumping the things into a big bin. The line went past. No time to shop and look for titles. *Grab a book, Joe, and keep goin'! You can swap afterward.*" *HCBW* p.82

31) ibid. p.65

32) ibid. p.64

33) *BFA* p.153

34) Jamieson (1945) p.325

35) "All levels of taste were to be catered to within reasonable limits: there must be "good" books,

both fiction and nonfiction, for the serious reader, as well as books which the serious reader would regard as trash." *BFA* p153

36) ibid. pp.152-3

37) Jamieson (1945) p.328

38) ibid. p.328

39) *Porgy and Bess* の原作 *Mamba's Girl* の作者 DuBose Heyward の作で、大恐慌後 Virgin 島の黒人一家の物語で、必ずしもお色気ものではない。タイトルの Virgin からの連想である。中身は別にしてセクシーなタイトルで兵士たちの人気を集めた本もあった。たとえば、*The Lively Lady*(歴史小説でタイトルは舟の名前 Q-29) *Is Sex Necessary?*(ユーモラスなエッセー集 M-2)

40) Mott (1947) の巻末ベストセラー表にもとづく。

41) "Last week we received your book on Mr. K*A*P*L*A*N. I read it and simply roared with laughter. As an experiment I read it one night at campfire. The men howled. I have not heard such laughs in months. Now they demand I only read one K*A*P*L*A*N story a night: a ration on pleasure." J.Cole にあてた手紙 1982 *BGW* ch.III

42) Hart (1950) p.259

43) ibid. p.259

44) cf. Mott (1947) 巻末ベストセラー表

45) Mott (1947) p .278

46) Tebbel (1987)

47) 注 …a Navy lieutenant of Red Cross field workers hitchhiking sixty miles in order to get copies of the books to take back for boys in remote hospitals, saying that the few copies already there had become worn far beyond readability, yet to throw one in a garage can was equivalent to striking your grandmother. *CBW* p.82

48) "It was on the Island of Saipan, the morning after a particularly trying night of heavy enemy mortar fire which had caused numerous casualties in our marine lines. I was walking along the road when I saw some of the dead being loaded gently into the backs of several trucks ……There were half a dozen stretched out, some on their backs, and several face down. One of latter was a young, fair-haired private who had only recentley arrived . as a replacement, full exuberance at finally being a full-fledged marine on the battle front. As I looked down at him I saw something which I don't think shall never forget. Sticking from his back trouser pocket was a yellow pocket edition of a book he had evidently been reading in his spare moments. Only the title was visible—*Our Hearts Were Young and Gay.*" *CBW* p.82-3

49) "From the airborne infantry of the front lines to the chairborne Finance Corps of the rear, you can find boys reading as they have never read before. Some toughies in my company have admitted without shame that they were reading their first book since they were in grammar school." *CBW* p.83

50) He recounted how a single copy of *A Tree Grows in Brooklyn* had passed from hand to hand until it reached him. "I can't express how much that book meant to me. Instead of thinking only of the German gunfire while waiting for the next flash, I thought about the people in the book," he wrote.

Once in India, I came upon a bearded top sergeant, deep in Walter Lippmann's *Foreign Policy.* I asked him his views on our foreign policy. "Sorry, sir," he said, "I haven't got any just now. But

will you wait until I finish this book?" Davis *Two-bit Culture* p.76

51) *BIA* Hackenberg p.19

52) ibid. p.19

53) Davis (1984) p.78

54) "I should guess that the sale of popular books after the war will be in the millions instead of the hundred thousands". Cowley. p.484

55) ibid. p.484

56) *HCBW* p.73

57) "By the end of the war, the public had become used to buying paperbacks. The earlier idea that "real" literature could only be bought at a book-shop, and not supermarket or a station kiosk, had disappeared. In America and abroad, it was clear that there was indeed a mass audience for paperbacks: publishers had only to look at the enormous total of almost 123 million Armed Service Editions in circulation. A seed had most definitely been planted and, in the late '40s and throughout the '50, paperback publishers would eagerly reap the resultant fruit." Schreuders p.52

58) Server は復員兵士たちの嗜好が、戦後のペーパーバックの出版傾向に大きな影響を与えたと見ている。"Softcover publishers were not trying, however to appeal to college professors. The twenty-five-cent editions-one-tenth the price of a hardcover book at the time-were aimed at a working- to middle-class male readership, largely a mass of ex-G.I.s who had picked up a taste for portable fiction while in uniform (thanks to the free Armed Services Editions distributed by the government during the war). The books catered to the former soldiers' supposed preference for sexy, violent stories, plainly written and not too long. The grim, sordid tone of so many postwar paperbacks could also be ascribed to the veterans' tastes-readers who had been trained to kill were understandably inclined to have a darker than average viewpoint." *Over My Dead Body* p.12

略語一覧

ASE = Armed Services Editions
BFA = *Books for Army*
BIA = *Books in Action*
CBW= The Council on Books in Wartime
HCBW = *A History of the Council on Books in Wartime*
VBC =Victory Book Campaign

参考文献

Bonn, Thomas L. (1982). Under Cover; *An Illustrated History of American Mass Market Paperbacks.* Penguin Books, Harmondsworth.

Cole, John Y. (ed) (1984). *Books in Action-The Armed Services Editions.* Library of Congress, Washington.

Council on Books in Wartime (1946). *A History of the Council on Books in Wartime, 1942-1946.* New York,. "Written by Robert O. Ballou from a working draft prepared by Irene Rakosky."

Cowley, Malcolm (1943). "Books by the Millions." *New Republic* 109, No.15 (October 11), 482-85.

Davis, Kenneth (1984). *Two-Bit Culture; The paperbacking of America.* Houghton Mifflin Company, Boston.

Hart, James D. (1950). *The Popular Book: A History of America's Literary Taste.* University of California Press, Berkeley and Los Angeles.

Jamieson, John (1945). Books and the Soldier." *Public Opinion Quarterly* 9, Issue 3.

(1947). "Armed Services Editions and G.I. Fan Mail." *Publishers' Weekly,* July 12,148-52.

(1947). "Censorship and the Soldier." *Public Opinion Quarterly* 11.

(1950) *Books for the Army: The Army Library Services in the Second World War.* Columbia University Press, New York.

金子聖之助(1973). 『世界のペーパーバック』. 出版同人, 東京.

Miller, Daniel (1996). *Books Go To War* http://www.lib.virginia.edu/exhibits/ase/ , Virginia University.

Mott, Frank Luther (1947). *Golden Multitudes; The History of Best Sellers in the United States.* The Macmillan Company, New York.

『20世紀全記録—Chronik 1900-86』 (1982). 講談社, 東京.

Nye, Russel (1970). *The Embarrassed Muse; The popular Arts in America.* The Dial Press, New York. 〈訳書: 『アメリカ大衆芸術物語』全3巻 亀井俊介他訳. 研究社. 東京 1979〉

O'Brien, Geoffrey (1997). *Hardboiled America;* Lurid Paperbacks and the Masters of Noir. Da Capo Press, New York.

Poullada, Leon B (1946). "Army Library Service in the Pacific." *Library Journal* 71, 562-66.

Princeton University Library (1997) *The Council on Books in Wartime Archives* http://libweb.princeton.edu:2003/libraries/firestone/rbsc/finding_aids/cbw.html.

斉藤 勇(1985).『英米文学事典』第3版. 研究社. 東京.

Schreuders, Piet (1981). *Paperbacks, U.S.A-A Graphic History 1939-1959.* Blue Dolphin Enterprises, Inc., San Diego. 〈訳書:『ペーパーバック大全—USA 1939-1959』渡辺洋一訳 晶文社 東京. 1992〉

Server, Lee (1994). *Over My Dead Body; The Sensational Age of the American Paperback:1945-55* Chronicle Books, San Francisco.

Tebbel, John (1981). *A History of Book Publishing in the U. S.. Vol. 4 Great Change.* R. R. Bowker Co., New York.

(1987). *Between Covers; The Rise and Transformation of American Book Publishing* Oxford University Press, New York Oxford.

TIME-LIFE Books (1985) . *This Fabulaous Century 1940-1950,* Time-Life Books Inc. 〈訳書『アメリカの世紀 1940-1950 パールハーバーの襲撃』仙名紀訳 西部タイム 東京. 1985〉

Trautman, Ray L. (1945). "What Our Soldiers Are Reading; Armed Services Editions and Magazines Currently Distributed." *Library Journal* 70 148-50.

Wilk, Max. (1981). "Of Armed Services Editions I Sing." *Publishers Weekly,* January 2, 22-24.